

サギも群れれば

以前にも述べましたが、近所に川があります。そこだけは自然の営みが残っており、水の流れは大雨のたびに変わります。川づたいにイノシシが山から下りてきます。ヘビも出ます。ホタルもいます。野鳥が、水浴びや採餌にやってきます。セキレイ、サギ類、冬にはカモもやってきます。ほっとする空間です。

筆者は、サギが好きです。とくに、ゴイサギがご最頂です。他のサギとは異なり、堤防のフェンスや川岸の木の枝に留まっています。首が肩に埋もれた姿勢で、じっとしています。「無駄な動きは一切するものか!」とでも言いそうな雰囲気です。大きな鳥ですが、まったく存在感がありません。その雰囲気が好きで、ゴイサギを見つけると、しばらく観察します。動く姿を見たいのです。根比べになります。この根比べに勝った記憶はありません。ほとんどの場合、筆者が根負けします。このため、動くゴイサギを見たことがありません。

話を戻します。私たちがよく目にするサギは、白サギです。大きさが異なる3種類がいます。ダイサギ、コサギ、チュウサギです。夜には3種が入り交じって、鷺山を作り、集団で過ごします。しかし、昼間は、多くの場合、1羽だけで水辺にたたずんでいます。お互いのテリトリーを尊重しているように感じます。

中嶋哲夫の

「人事も歩けば」



▲白サギの群れ

過日、珍しく水辺でサギの群れを見ました。20羽を超える数です。コサギのほかに、オオサギも混じっています。しかも、群れのサギがゆっくりと動いています。多くのサギの動きはまちまちなのですが、5羽ほどは、同じ方向を向いています。緊張感を感じます。その方向を観察すると、カワウがいました。小さな淵に潜り込んで餌を採っています。白サギからすればテリトリーへの侵入者なのでしょう。一定の距離をとって警戒しながら、示威行動をしているようです。派手な威嚇ではなく、群れを意識させて牽制している様子。少しずつ距離を縮めます。そのうちに、カワウがうんざりしたのでしょう。カワウはどこかへ飛び去りました。

ふだんは1羽ずつ行動している白サギが、外敵に対しては群れをつくる。ウイルスという外敵が出現した今、敵に対するわれわれの集団的示威行動が、対人接触の徹底した回避なのかもしれない。そんな思いをもちました。

(MBO 実践支援センター代表)